



子どもと外遊びを楽しもう

テレビゲームやカードゲームなどの充実や習い事に行く機会の増加などから、子どもが元気に外で遊ぶことが少なくなっています。

外遊びが子どもの成長にもたらす効果は大きく3つあります。1つ目は、子どもの体の発達を促します。子どもは外遊びをとおして、さまざまな動きを経験することで体をバランス良く鍛えることができます。また、疲れるまで遊ぶことで自然と体力がつきます。2つ目は、脳の発達を促します。外で遊ぶことは、単純な動きだけではありません。遊びの中で決められたルールを守りながら、走ったり止まったり、手指を動かしたりといった複雑な動作が求められます。これらがあらゆる神経を刺激し、脳の発達を促します。3つ目は、

コミュニケーション力や積極性、協調性が身に付きます。室内で遊ぶことは異なり、外遊びをする公園などは、さまざまな年代の子どもがたくさん遊んでいます。その中には初対面の子ともいるため、一緒に遊んでいるうちに自然とコミュニケーション力が養われ積極性が身に付きます。また、遊びのルールや公園の遊具の順番を守ることをとおして協調性が養われるのです。

外遊びをより良くするためには「提案しすぎず見守る」ことが重要なポイントです。外遊びをする際に成長への効果を期待するあまり「ボールで遊ぼう」などと大人の目線から遊びを提案しがちです。しかし、子どもが興味をもてない遊びであれば楽しくないと感じてしまい、やがて子どもにとってストレスとなるのです。そのため、外遊びをする際は遊びの内容を大人が考えるのではなく、子どもの想像力にまかせることが大切です。一緒に外に出た際は子どもが何に興味を持っているのか見守ってあげましょう。

最近、子どもが外で遊んでいないと感じているのであれば、この機会に数分だけでも外に出かけるように誘ってみませんか。安全や感染症対策に気を付けながら外遊びを楽しみましょう。



特別支援教育便り

▽問い合わせ 学校教育係
(☎223局3547)

思春期女子の学校生活

思春期となる中学生の時期は、男女とも自分のことを見つめることができるようになる一方、他人の目や気にするようになります。イメージすることや人の気持ちを読み取ることで苦手な発達障がいのある生徒は、自分と他人の違いを感じて孤立感を深めてしまったり、自分がどう思われているのか分からず混乱したりすることがあります。また、第二次性徴による体や心の変化は、変化への対応が苦手な生徒にとって大きなストレスになっている場合もあるのです。

特に女子の場合、周りの人からは問題がないように見えても、実際は周りに合わせようと必死に頑張っていることも多いため、葛藤を抱えて悩んでいてもなかなか気付いてもらえないことがあります。

精神的にとっても傷つきやすい思春期は、日常のちよつとしたつまづきや困難が学校生活への不適応につながることがあり、特に自分の気持ちを表現することが苦手な発達障がいの生徒は、不安やつらさを身体症状として訴える場合があることを忘れてはならないのです。

障がいの生徒は、不安やつらさを身体症状として訴える場合があることを忘れてはならないのです。

- 体の不調が続いている
- 保健室で過ごすことが多い
- 欠席が多い

そういう子どもの中に、「自分はみんなと同じにはできない」「普通じゃないかも」と悩み、「自分はダメだ」と苦しんでいる生徒がいるかもしれないという認識を、学校や保護者、周りの大人が持たなければなりません。特に発達障がいのある女子は、次のような姿をみせることもあります。

- 体調や気分のムラが大きい
- 場や相手に応じたふるまいがわからない

- 女子グループに入れない

生徒が、将来職場や家庭などの社会生活で不適応を起こし、どうしていいかわからず悩み続ける人生を送らないためにも、子どもの言動の背景に気付くことが大切です。そして、子どもの困り感に気付く、特性に配慮した支援を行うことで、学校が生徒にとってより生活しやすい場になるよう、家庭と学校が連携していくことが大切だと考えています。

芦屋中学校 鱒村礼子
※参考文献：国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センターリーフレット「思春期女子の学校生活」

芦屋中学校

雨にも負けず 風にも負けず 雪にも夏の暑さにも負けぬ

芦屋中学校では毎朝、生徒会の呼びかけのもと、有志が校門に立ちあいさつ運動を行っています。また、同時刻、剣道部の生徒たちは町内のゴミ拾いをしてくれています。



あいさつ運動では、雨の日も冷たい風の日も、毎日50人程が参加し、登校してくる友だちに「おはようございます!」と元気に声をかけています。過去、多い時には100人を越える日もあり、その数なんと全校生徒の約3分の1! 全国でもほかに類を見ない取り組みだと思えます。

さて、あいさつは人と人とのコミュニケーション

の第一歩と言われますが、もうひとつ深い意味を備えています。「おはようございます」という言葉はもともと歌舞



伎の世界から広がったと言われており、出番前の練習のため、早くから楽屋入りしている役者さんたちに対し、ねぎらいの言葉として「お早いお着き、ご苦労様」という意味で使われていました。また明治学院大学教授、武光誠氏は「お早くお起きになりまして、ご健康おめでとうございます」というあいさつを省略したものと述べています。そのように、あいさつは相手を気遣う言葉で、「相手を気遣う=優しさ」とすれば、「あいさつができる人=優しい人」と言えます。あいさつ運動の参加者が増えるにつれ、芦屋中学校はますます優しい人が多くなっているように感じます。今後もこの取り組みを継続し、さらに優しく元気な芦屋中学校になることを期待しています。(教頭 石松 誠)

学校での出来事を先生たちがお届け!!

山鹿小学校

芦屋町に「誇り」や「愛着」を

芦屋町学校教育の重点取組の1つである「シビックプライドの醸成」に関する本校の教育活動を2つ紹介します。

※シビックプライドとは、自分の住んでいるまち、または働いているまちに「誇り」や「愛着」を持って、自らもよりよいまちづくりに参画しているという気持ちを持つことです。

●6年生「ふるさと探検隊」

6年生児童一人ひとりが、芦屋町の産業・観光や歴史・文化に関することなどの課題を持ち、調べ学習に取り組みしました。まず、書籍やインターネットなどを用いて下調べをしました。次に、分からない点・もっと知りたい点を整理し、課題ごとのグループに分かれ、実際に視察・インタ



ビューなどに出かけました。現地に赴くことで、人々の思いや苦勞を心と体で直接感じ取り、芦屋町への「誇り」を芽生えさせていました。

●5年生「しめ縄づくり」

5年生恒例のゲストティーチャー(以下、GT)を招いての「しめ縄づくり」。児童はGTに手を添えてもらってわらのより合わせ方を教わりながら作りました。真剣な表情の児童、顔に喜色が溢れる児童など、さまざまでした。最後には、一人ひとりが世界に一つだけのしめ縄を作ることができました。GTの皆さんから指導をしてもらいながら、また手伝ってもらいながら制作したしめ縄をととても大切そうに持って帰りました。こうした体験をとおして芦屋町の人々への「愛着」を深めることができました。(教頭 吉川 亨)

